

# こくろう秋田

## 国労への信頼を広げる 運動づくりで組織拡大へ

3月、秋田市くらしと労働会館で第125回拡大地方委員会が開催されました。

佐藤浩一委員長挨拶(抜粋)



佐藤浩一 地本委員長

悔やみ申し上げ、被災された方にお見舞い申し上げます。

国労は定期昇給の完全実施と17000円のベースアップをめざし新賃金要求等、夏季手当3ヶ月+5万円、2021年度の定期昇給半減の回復等申し入れている。今春闘も政府や経済団体先行の賃上げの雰囲気作りが進んでいますが、長引くデフレ不況の中労働者の実質賃金は上がらず、商品全体の物価が上昇する中、生活改善のためにも私たち自身が要求額満額獲得と労働条件の改善に全力で取り組むことが大切。

強風の影響で乗務が終わらず間に合わない高橋毅副委員長の代わりに宮崎執行委員が開会の挨拶を自身の思いを込め、組織

元日に発生した能登半島地震は多くの犠牲者が出て大きな被害、損害が発生。亡くなられた方に対し心からお

自動車業界では満額回答が出ている会社もある中、JRグループでもそういった回答を引き出すためにあらゆる取り組みに全力を挙げることが大切です。秋田地方本部一人一人がやれることは必ず実行し成果を上げるように意思統一をして運動を進めよう。

最重要課題である組織の強化・拡大は待たなしの状況。本部は「各機関1名を確実に拡大し、全国で50名の拡大を目指す」ことを確認。私たち秋田地本もそれに応えるためにより一層の奮闘が求められます。

国労組合員がたった一人の職場で過半数代表者選挙に立候補し、職場で地道に国労加入を訴えている組合員。団体交渉で会社と向き合い働きやすい職場実現に向け奮闘している姿を秋田地本全体で確認しよう。国鉄世代はさらにバックアップ体制を築き組織拡大に大きく足を踏み出してほしい。

職場過半数代表選挙では、労働組合について語りとかく声をかけること、つながりを



国鉄労働組合  
秋田地方本部  
秋田市中通  
7-2-21  
☎018-832-3775  
発行責任者 佐藤浩一  
編集責任者 編集部

拡大活動の報告をし、議長には操車セの村越代議員を選出しました。

◆村越議長も度々議長を務め、今回が最後。68歳になり退職の話があった。国労組合員で新入社員の指導も担当。組合活動をする中で働くということがいかに大事かということを次の世代に伝えていきたい。

築くことを念頭に取り組みを。

システムを超えて新たな価値の創造をしていくと称し、統括センター、営業統括センターの発足、設備関係職場の集約、さらに車両部門の東北本部への移管を進めています。3月には秋田総括センターが発足します。統括センター等の課題の改善や問題点が解決しないまま進められている現状は不安しかない。

労働組合は、働きやすい会社、職場を作るために運動をし、安心して生活していける社会を作るためにも政治活動を切り離すことはできません。国労方針に基づく候補者の勝利に向けて全力を挙げていこう。

私たちに組織の展望を切り開く条件は確実に存在する。必要なのは、職場や地域で抱えている問題を一緒に考え、悩み、寄り添うこと。労働条件改善などに取り組み、国労への信頼を広げ、一人一人の組合員がその思いを共有し、組織強化拡大に大きく足を踏み出す。



佐藤浩一 地本執行委員長は別掲  
◆来賓の国労東日本和賀執行委員、春闘の状況報告、昨年連続した電気の事故に国労が原因究明と再発防止に

向けて交渉をしてきた。そんな中で1月の架線垂下の大規模な輸送障害と復旧作業時の感電事故も発生。安全が疎かになっていく。さらに融合と連携の弊害に対しても緊急に申し入れを行っている。横手連合分会からの激



ダイヤ改正で大館駅1名減。17時以降一人体制では異常時の対応に不安。鷹ノ巣駅では奥羽線到着1分前に内陸線が発車するダイヤ。内陸線は毎日時刻変更するとの話だったが、奥羽線到着後乗換を待つて内陸線が発車させ毎日内陸線の列車が5分程度遅れる。アプリでの乗り継ぎには出てこない。



◆吉田委員(秋田連合)  
職場は秋田営業統括センター  
秋田駅。組織改

正で昨年3月羽後本荘駅を加え、管理する駅が30を超え社員は30名ほど、その中でうら若き青年社員が2名退職。若い社員が展望を見いだせずに辞めていく実態を目の当たりにした。ダイヤ改正で運輸区と統合され秋田統括センターになり、会社の言う融合と連携で仕事に楽になるのかと思いきや、作業ダイヤは日勤が1名減。秋田駅に窓口1つで対応できるが不安でしょうがない。他の社員に国労に入れと

励に感謝。組織拡大の戦線整備として、組織再編を進めていく。  
◆宇佐美書記長から闘争方針案が提起。(大会資料参照)  
◇伊藤宏委員(北奥羽)

冗談まじりに話している。社友会にお願いしても要求は解決しない、組合だからこそ要求は勝ち取れるということを訴えていきたい。



◇佐藤地  
本会計監  
査（横手  
連合）  
ダイヤ  
改正団交

で秋田駅と秋田運輸区が統括センターになることが提案されたが、秋田駅から秋田営業統括センターに統合になった時にデメリットしか感じられない。現場に来て現状を見てくれ、現場の窮屈さ働きにくさ弊害などを発言。支社の担当はしばらく何も答えられなかった。覇気がなくギスギスした職場環境の中、コミュニケーション不足からか、LED発車標の入力ミス、車いす対応の失念、出勤遅延などの事象が短いスパンで連続して発生。社員同士の声かけ、確認会話がきちんとなされていない。副長が、勤務操配のために乗務中の業務携帯に電話をかけ、その対応で列車遅延が発生。社員の中でも選ばれし副長は一体何を学んだのか？いざというときに社員を守れない管理者に存在意義はあるのか？昇進試験のあり方に疑問。要員不足のため一般社員の業務を副長も行う。

冬期一交勤務が日勤になり副長との引継ぎが増加。本来は指導すべき副長が一般社員よりも仕事に分からない、ポイントの場所や近くの踏切の場所や車を止める場所も把握していない。勤務は年休も取れないようなキツキツの状態。先輩社員も腹を立てている。先の見えない不安を拭きたい気持ち、プライベートにも十分な時間を割きたい気持ち、心労が絶えず今の仕事に展望が見えず、若手社員の仕事離れに歯止めがかからない。仲間と知恵を絞りを合わせ一人でも共感できる仲間を増やし「心を持った人間としての生活が送れるゆとり」を勝ち取ろう。喜びと嬉しさを力に変えて今日を含め明日から、国鉄労働組合を選んだ自分に自信を持って胸を張っていい。



設備系統との意見交換会で現在駅と保技セで行っている信号所への注油を保技セに依頼し実現しよう。また排雪用の流雪溝の蓋取り外し、その流雪溝に水を流す機械のスイッチも保技セに依頼。駅、保技セ、電気と縦割りの組織であり、なかなか連絡などが出来ていなかった部分について前進が図られそうだ。

◇堀井委員（総車セ）  
現在組織はエルダーがほとんど。2024年度の総車セ業務の提案があり、定期検査車両は昨年からは半減。さらに組織



改編も同時に提案され、班集会を開いてその提案内容を討議。春闘に関する要求、職場改善に関する要求、業務計画に関する要求について一人一要求の取り組みを提起し全体で春闘を闘う意思統一をした。全17項目の要求を提出済み。職場代表者選挙は、国労・ユニオン・東日本と三組合の共闘と社友会の候補との選挙となり、残念ながら今回も代表とはならなかったが、組合員数よりも多い得票となった。

本部のツナグは大変良い取り組み。現役社員と接触する機会が少なくなっているが会話につなげたい。労働組合が何かを知ってもらうことから始めるというのではない。

◇菊地委員（貨物）



臨海鉄道が廃止されて要員が増えたが、今はもとに戻った。組合加

入を呼びかけ一度国労に入ったけど、攻撃が強くて辞めてしまったという苦い経験があり、私たちが守れなかったこと悔やんでいるが、組織拡大は是非とも必要。



◇柴田委員（横手連合）  
組織の状況はエルダーが多くなるのは3名。現場との接点が少ない。統括センターでメリットなし。せっかく仕事を覚えた人が転勤になる。何種類の仕事が出来る人を育てると言いながらそうはならない状況。過半数代表者選挙は奮闘しましたが及ばず。他の職場との接点作りが大事。

S u i c a の取扱いは無人駅などで対応に苦慮している。お客さまにキチンと理解してもらおうようにする責任はJRにあるのでは。

◆宮崎業務部長回答  
駅職場は大変だ。駅関連で団交やりませんか？黙っているだけでは進まないの



で。鷹ノ巣はL i v i t で会社が相手にしない。東北本部に上げる方法はどうか？

◆宇佐美書記長集約

現場で先頭に立って頑張っていたことに感謝。現場の生の声をこれからの運動に生かしていきたい。労働組合の力とは団結力。客貨一体となった闘いの強化を図り春闘を闘い抜きたい。運動を進めるには組合員自身の健康が大事。仲間や同僚を思いやり、何より私たちが支えてくれている家族に感謝しながら奮闘しよう。組合員全員が同じ方向を向いて運動を継続し、まだまだやれることはいっぱいある。



◆東北の三地本を東北地本に組織改編するという方向。今度の東日本エリアの大会で提案がされ、来年7月から二地本体制（東北地本・首都圏地本）へ。

★最後は佐藤委員長の団結ガンバローで会を開きました。

